

## 新収資料展

# 東京都近代文学博物館寄贈資料

今回展示する東京都近代文学博物館資料は、2002年4月に寄贈されたものである。東京都近代文学博物館は、東京都の財政事情の悪化に伴ない、平成14年3月で閉鎖された。蔵書の多くは、江戸東京博物館等の公共機関へ移管されたが、福田清人・塩田良平両氏のほか実践女子大学の先生方が文学博物館の活動に関わっておられた経緯もあり、板垣図書館長の尽力により本学の資料譲渡申し入れ申請が受理され、雑誌『文芸広場』所収の直筆原稿168点ほか図書約800冊が寄贈されるにいった。

東京都近代文学博物館は、目黒区駒場公園内にある旧加賀百万石藩主前田家の16代当主前田利為氏の本邸として昭和4年に建設されたもので、設計者は『日本橋高島屋』や伊豆の『川奈ホテル』等を設計した高橋貞太郎である。外観はイギリス後期ゴシック様式によっており、内部も柱やマントルピースなど大理石をふんだんに使用した装飾がほどこされており、建設当時東洋一の豪邸と称されたという。建物は現在も公開されており、近くに日本近代文学館がある。



### 原稿の部

#### 1. 菅井さんの話 大岡 信著 12枚

**大岡 信** (1931 - ) 詩人、評論家

谷川俊太郎等の同人『櫂』に加わり、後に吉岡実・清岡卓行・飯島耕一などと『鱒』を創刊。超現実的イメージが日本語の正統な言葉によって表現された詩句は、和歌、美術、音楽、シュルレアリスム(フランス文学)などの幅広い知識に裏打ちされており、評論も『紀貫之』の日本古典から『ミロ』の美術評論まで多岐に渡っている。特に『折々のうた』は、朝日新聞に連載され、現在も続いている。『大岡信詩集』ほか著作多数。  
芥川賞作家(第102回『表層生活』)の大岡玲は、子息である。

#### 2. 会社をやめて 中桐雅夫著 5枚

**中桐雅夫** (1919 - 1983) 詩人

戦前の学生時代から詩誌『LUNA』を発行し、戦後の昭和22年に鮎川信夫・田村隆一・北村太郎・黒田三郎・三好豊一郎等と詩集『荒地』の創刊に関わる。荒地派の特徴は、戦前にモダニズム(特に英国の詩人 W.H. Auden)に親しみ、個の確立を遂げており、戦争中『四季』派に代表される日本の詩の表現が、伝統的な七五調に退嬰していくのを批判的に捉えていて、多くが一兵卒として戦争をくぐったことにより、内面の意識と体験を踏まえた現実意識の葛藤から生まれた思想性を、日本の口語自由詩のなかに始めて定着させたことにある。著書に、『中桐雅夫詩集』。その他、W.H. Auden の訳詩集『オーデン(世界詩人全集第19巻)』などがある。

### 3. 教師生活の思い出 山室 静著 10枚

**山室 静**（1906 - 2000） 評論家、北欧文学研究者

当初マルクス主義文学の影響を受けたが、しだいに批判的になる。昭和11年本田秋五・平野謙等と『批評』を創刊。また、昭和18年、中国との戦争に入った日本を批判したインドの詩人タゴールの詩を翻訳した。戦後、昭和25年埴谷雄高・本田秋五・平野謙・荒正人等の『近代文学』に参加した。一貫して、戦前のプロレタリア文学の流れを引きずり戦後も政治的優位性から脱却できない『新日本文学』に代表される民主主義文学を批判した。しかし、近代文学自体に積極的関心が薄れ、童話、民話や神話の研究に移行した。著書に、『山室静自選著作集』『タゴール詩集』『アンデルセンの生涯』などがある。私たちにいちばん馴染みが深いのは、北欧童話トーベ・ヤンソンの『ムーミン』の翻訳者としてであろう。

### 4. ロンドンの夜あけ 入江相政著 5枚

年号忘却 入江相政著 5枚

**入江相政**（1905 - 1985） 侍従長、随筆家

昭和9年、学習院教授から侍従となり、戦後昭和44年より侍従長となった。昭和天皇に、戦前・戦中・戦後に涉り側近として仕え、激動の昭和史の核心を知る証人のひとりである。昭和10年から書き継がれた日記は、皇室の秘事も記録されている。著書に、『入江相政日記』ほか。

### 5. 失礼しますとバイバイ 萩原葉子著 5枚

**萩原葉子**（1920 - ） 作家、随筆家

父は、詩人の萩原朔太郎。昭和31年～34年にかけて山岸外史主催の『青い花』に『父・萩原朔太郎の思い出』を連載。『父・萩原朔太郎』として出版し、エッセイエスト・クラブ賞を受賞。以後、執筆活動に入り、『天上の花 三好達治抄』で新潮社文学賞・田村俊子賞を受賞した。

### 6. 尾長ひよどり 室生朝子著 6枚

**室生朝子**（1923 - ） 随筆家、作家

父は、作家の室生犀星。犀星の小説『杏っこ』のモデルである。著作は犀星に関するものが多く、『晩年の父犀星』『父室生犀星』などがある。

## 実践女子大学関係者の原稿

### 7. 檻の中の犬 阿部秋生著 11枚

**阿部秋生**（1910 - 1999） 文学部国文学科教授、源氏物語研究  
東京大学教授を経て、昭和46年文学部国文学科教授に就任。昭和61年3月退職。  
この間、文学部長、文学部文芸資料研究所長を務めた。  
著書に、『源氏物語の物語論』『源氏物語の本文』『光源氏論』など。

### 8. 薄暮(ハクボ)の公園で 井本農一著 11枚

**明治三十八年の東大新入生と日比谷焼打ち事件** 井本農一著 11枚

**井本農一**（1913 - 1998） 文学部国文学科教授（学長） 松尾芭蕉研究  
父は、作家の青木健作。農一という名の由来は、父が士農工商の士を嫌い子供に農一・工二・商三と順につけたためといわれている。  
お茶の水女子大学、聖心女子大学教授を経て、昭和56年文学部国文学科教授に就任。昭和63年3月退職。昭和59年4月 - 昭和63年3月まで実践女子大学・同短期大学学長を務めた。著書に、『芭蕉の文学の研究』『季語の研究』『芭蕉と俳諧史の研究』など多数。

### 9. 鶺鴒香によせて 三条西公正著 11枚

**三条西公正**（1901 - 1984） 文学部国文学科教授、香道  
苗字の通り公家の出身。大正13年、勅命により久邇宮邦彦二女信子と結婚。ちなみに、信子の姉良子は、当時の皇太子裕仁（後の昭和天皇）と結婚しており、天皇家とは姻戚関係にあたる。川村学園、跡見女子短期大学等を経て、昭和24年文家政科教授に就任。昭和51年3月退職。著書に『組香の鑑賞』など。

### 10. 冬瓜 守隨憲治著 10枚

**馬籠の石畳** 守隨憲治著 12枚

**守隨憲治**（1899 - 1983） 文学部国文学科教授（学長） 歌舞伎・浄瑠璃研究  
東京大学教授を経て、昭和34年文家政学部国文学科教授に就任。昭和36年4月 - 昭和41年3月、昭和46年4月 - 昭和49年3月の二度学長に就任。昭和49年3月退職。  
著書に、『守隨憲治著作集』ほか。  
大学図書館の特殊コレクション『近世文芸資料』（『役者評判記』『浄瑠璃番附』など）の収集にも貢献した。

- 1 1 . **芭蕉と大仏さん** 那須辰造著 5 枚  
**国のまほろば** 那須辰造著 6 枚

**那須辰造** (1904 - 1975) 文学部国文学科教授、作家、児童文学作家、児童文学研究  
昭和 4 年頃より『新思潮』など幾つかの同人に参加し、昭和 6 年より文壇に登った。  
『少年と少女』『釘つけする家』『哀傷日記』『國しぬび』などの著書がある。  
戦後児童文学に進んだ。昭和 27 年頃から、実践で教鞭をとる。後、実践女子大学教授。  
昭和 50 年、短大客員教授在任中に死去。

- 1 2 . **ブルゴーニュの旅** 新田大作著 10 枚

**新田大作** (1924 - 1986) 文学部国文学科教授、漢詩、中国思想史研究  
昭和 44 年、文学部国文学科助教授として就任。昭和 50 年同教授に昇任。在任中に死去。  
著書に、『漢詩の作り方』『中国思想研究論集』などがある。

## 図書の一部

- 1 . **鬪牛** 井上靖著 第 22 回芥川賞受賞作  
文芸春秋新社 1950 (TKB-89)
- 2 . **太陽の季節** 石原慎太郎著 第 34 回芥川賞受賞作  
新潮社 1956 (TKB-45)
- 3 . **忍ぶ川** 三浦哲郎著 第 44 回芥川賞受賞作  
新潮社 1961 (TKB-659)
- 4 . **鯨神** 宇能鴻一郎著 第 46 回芥川賞受賞作  
文芸春秋新社 1962 (TKB-130)
- 5 . **年の残り** 丸谷才一著 第 59 回芥川賞受賞作  
文芸春秋 1968 (TKB-645)
- 6 . **蚩川** 宮本輝著 第 78 回芥川賞受賞作  
筑摩書房 1978 (TKB-696)



(会期：2002 年 10 月 1 日～31 日 会場：実践女子大学図書館・短期大学図書館)